

第8回「日本語大賞」

テーマ「あまり使いたくない日本語・もっと使いたい日本語」

中学生の部 優秀賞 受賞作品

何となく「おかげさま」

大阪府
大阪教育大学附属池田中学校
2年 吉本 駿

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

何となく「おかげさま」

大阪教育大学附属池田中学校 二年

吉本 駿

僕は、今暮らしています。家に住んでいます。電車に乗ります。ジュースを飲みます。服を着ます。

こんな何の変哲もない「当たり前」のような日常を、僕は今、「当たり前」にすごしています。でも、それは本当に「当たり前」なのでしょうか。その「当たり前」は全て自分一人で作っているのでしょうか。また、本気を出せば一人でもつくりあげることのできるのでしょうか。答えは簡単、ノーです。僕の陰には、僕の「当たり前」を支えている、知る由もないような人達がたくさんいるはずですよ。

そんな人達には僕はどうするべきでしょうか。当然といえば、当然ですが、感謝するべきです。というより、感謝しなければなりません。

では、如何にして、どこにいるかも分からない、どんな人も分からないような人に感謝の気持ちを伝えるか。「ありがとうございます」なんかもストレートでいいと思いますが、見ず知らずの自分のために、汗を流してくれた人に対しては、少し軽い気がします。こんなときにも格好の言葉がある日本語は、本当にすごいと思います。

「おかげさま」という言葉です。この言葉は、漢字で「お陰様」とかき、他人から受ける利益や恩恵を意味する「お陰」に「様」をつけて、丁寧にしたことが、この言葉の語源になったといわれています。最近、皮肉にも使われてしまうこともあるようですが、僕はこの言葉が大好きです。この「おかげさま」という言葉ですが、伝える言葉が変わったところで、どの道伝えたい人に伝わるのが絶望的だということは誰でも察しがつくと思います。

何も伝える必要はないのです。「言っ」てダメなら「想っ」てみると、「願っ」てみると、何だか伝わっていくような気がしてきませんか。僕は、ただの自己満足かもしれませんが、何となく、心の中で想ってみると、ほっこりした気分になります。例えば「いただきます」と言う。そのあと、食材を見て、それが、ここまで来るまでの経緯を少し考えてみる。そして、想う。「おかげさま」と。これは、僕が時間を持て余し、精神的にも余裕があるときのご飯前にたまにやっていることです。これこそ自己満足の極みかもしれませんが、何となく自分がいいことをしたような気がして、その感覚が何となく好きなので、ほんの数秒の間ですが、やるようにしています。

何の根拠もない「何となく」だらけのあやふやな、いち学生の勝手な考えですが、僕はこの考え方が好きだし、多少なりとも自信ももっています。

もちろん、感謝の言葉や、それ以外の場面でも、しっかり伝えないと、相手には伝わってくれません。自分の声が届くところであれば、「はっきりと」言葉にして感謝の気持ちを伝えたい方が、自分も相手もいい気持ちになります。でも、どうしても伝えられないとき、相手を強く想い、自分の感謝の気持ちを強く想ってみてください。

「おかげさま」と。

何となく相手も感じとってくれるはずですよ。